

【議事概要】第7回バリアフリー法及び関連施策のあり方に関する検討会

○日時：平成30年11月29日 13時30分～15時

○場所：中央合同庁舎3号館 10階共用会議室

【議事概要】

（局長挨拶）

（座長挨拶）

（事務局より資料に沿って説明）

（委員からの意見概要）

○整備目標の項目について、より詳細に表示していくべき。例えば、鉄道はガイドラインの基準ごと、リフト付バスは路線バスと高速バス等、タクシーは福祉タクシーにひとくくりにしないこと、建築物は特別特定建築物の用途ごと等。地方分権のため厳しいかもしれないが、委任状例や基本構想、マスタープランについても国の目標を示すべき。

○貸切バスのバリアフリー化の予算も拡充すべき。

○インバウンドなど国の施策として推進している中、地方の空港ターミナルのバリアフリーを促進するための予算措置を拡充すべき。

○UDタクシーについて、都市部は利用数が多いと思うが、公共交通による代替交通に限られる地方部こそ需要が高いと思われる。地方部でのUDタクシーの普及に努めるべき。

○旅客船については、予算措置が見えづらいが動きはあるのか。離島では高齢化が進行しており、地域の必要不可欠な公共交通としてバリアフリーの対応が求められる。

○整備目標だけではなく、利用実態の調査をすべきではないか。

○施策の改正等を一般の障害の方たちにどのように周知していくのか。

○パーソントリップ調査の項目に移動困難者が含まれているのか。全国規模ではおそらくないが、全国規模では実施が困難であるため、東京の調査において移動困難者を扱ってはどうか。

○高齢化の中で、移動困難者の需要を知ることは重要。現状の調査では外出が困難な方が対象とされていない。イギリス、スウェーデンでは30年前から実施しており、日本でも福井都市圏、京阪神都市圏の調査では項目に入れている。今後、調査の専門家を委員に入れてみてはどうか。

○評価会議ができたことはありがたい。しかし、こうした会議では報告だけで終わることがあるため、障害者、公共交通事業者双方が意見を出し合う場にしていきたいという思いがある。また、中央だけで議論されるのではなく、地方特有の問題を地元の障害当事者、公共交通事業者等で話し合うの

が必要。地方と都市圏のバリアフリーの進み方が違うため、地方でも話し合う環境の場となってほしい。

○UDタクシーの乗車拒否について、UDタクシーの開発時に障害者の意見がどれ程入っていたのか、アクセシビリティとユーザビリティの違いがでたものだと考えている。

○基本構想について、市区町村の約17%しかつくられていない。地方のバリアフリーを活性化するために、どの様に当事者の評価が加わっていくのかが重要。

○公共交通事業者に整備計画を作っていただくことになった。計画の内容、進捗について、10ある運輸局のブロックを活用して障害者が確認する場を設ける。また、こういう場で各局から出てくるいろんな施策を評価する会議をもって、2段階の評価を進めてもらいたい。

○評価会議が年1回では報告会になってしまう。少なくとも3回開いてほしい。会議には、様々な人が参加し、半数以上を障害者が占めるようにしてもらいたい。

○UDタクシーに関して、空港では歩道と車道の段差が大きい乗り場と小さい乗り場両方を作らないといけないか、どうやって作るのかが議論となっている。駅前広場ではタクシー乗り場でスロープの勾配がかなりきつくなるという問題がある。道路構造についても、今後議論していただきたい。

○評価会議の開催費用について、予算化されているのか。予算化されていないとなれば、お金のない自治体では開催できなくなってしまう。また、障害当事者からどのような意見があったのか、評価会議の議事録は、情報公開していただきたい。

○地域別の分科会というのはそれぞれの地域で行うものなのか、それともこの場で分科会ということでやるのかイメージがわからない。福祉輸送について、評価会議の議題としていただけるのか。

○近畿では既に評価会議のような取組自体はあった。皆がこの制度に喜んだのは、評価会議の記載により、市町村単位や大きい市では地域単位で開催できるという思惑があったからなのでは。会議体の運用単位、出席者についても、地方局単位よりもっと細かいものにすべきでは。

○開催単位については、やりながら考えていく話だろうと思う。。

○マスタープランや基本構想の見直しは5年毎なので、その合間の年に評価をする仕組みがあれば良いものになると思う。

○要望として申し上げると、5年後、10年後につなげるために、領域毎、テーマ毎にも、少なくとも年1回開催していただきたい。

○評価会議が行われること自体は、感謝している。会議スタイルの場合、資料で情報取得は視覚障害者には難しい。フィールドワークのように、可能であれば各地方で良い事例、悪い事例というような場所を歩かせてもらうというような会議もあるとよい。文字で書かれた資料をその場で説明されてもわからない場合があるので、最低限、立体コピーのようなものも配布していただくなどの配慮をお願いしたい。

- 開催は良いと思うが、当連盟は各県単位で会があるので、ある程度は意見の集約ができる。しかし、
会員以外の人も意見を出せるような窓口をPRして頂ければその中で出た意見が会議に活かせる。
- 是非、評価会議の開催単位を運輸局単位ではなく、都道府県、政令市、中核市の単位に落としてもら
いたい。そうでないと、本当に障害者の意見を吸い上げることはできないと思う。